

良寛の里わしまと
はちすば通りで巡る

まちが紡ぐ

良寛と貞心尼の物語





托鉢をし「布施行」に明け暮れた山中の侘び住まいから人里に移り住んで五年もの間、昼となく夜となく多くの人々と茶を飲み、酒を酌み交わし、心はずむままに歌を詠み、詩を綴った良寛。足を知り清貧に生きたその生涯において、貞心尼との出逢いという歴史的ロマンスを生み出したこの地を訪れた折には、一度立ち寄りたいたいと思っていた場所がある。それが「道の駅 良寛の里わしま」だ。一万坪を超える広大な敷地内には、四季折々の美しさが彩る遊歩道沿いに古民家を移築した食事処や美術館などが点在。良寛と貞心尼の遺墨を数多く展示している美術館もそのひとつ。小さな囲炉裏を挟んで歌を詠み合い、美しい師弟愛を育んだ姿をこれほど間近に感じられる場所などそうはない。二人が残した書を愛でつつ、子どもらと手まりをついて遊んだ宇奈具志神社や、野の風に吹かれ弟子の遍澄とともに托鉢に通った小路をそぞろ歩く…。まさに、ここは現代に生きる人々が、しばしタイムトラベルを楽しむための癒しのオアシスなのだ。

良寛の里わしま

「裏を見せ 表を見せて 散るもみじ」。四季の移ろいに彩られながら静寂の中にたたずむ良寛像。和らいだ表情に、常に無一物でありながら慈愛の心に満ちあふれた人柄が偲ばれる。



良寛の里わしま

人々に慕われ、自然の中に生きた良寛の心を感じる場所。

四季折々の旅情に誘われるまま
今なお良寛の心が息づく里をひと巡り。
黒塗りの柱梁が並ぶ古民家の軒先で、
石畳がなだらかな曲線を描く小路の先で、
托鉢姿の良寛さんに出遭う旅へ…。

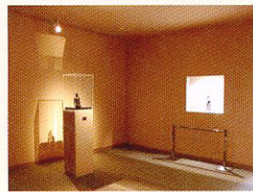
菊盛記念 美術館

良寛が愛した国上山を望む
田園風景のアートスポット
創設者の心遣いあふれる
メモリアルミュージアム

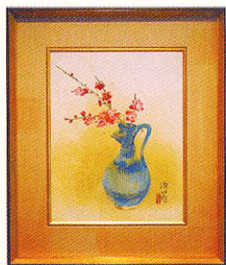
長岡市島崎 3938 番地
【道の駅良寛の里わしま内】
TEL : 0258-74-3700
開館時間：午前 9 時～午後 5 時
入館料：大人（高校生以上） 400 円
小人（小・中学生） 250 円
※団体 20 名様以上は各 100 円引
休館日：年末年始



丘の上の高台に建つシンプルな外観の『菊盛記念美術館』。晴れた日にはロビーに大きく開いた窓から良寛が愛した国上山が望める。



近代彫刻の祖とも謳われるオーギュスト・ロダンや、詩人であり彫刻家である高村光太郎を始めとした 20 世紀日本の代表的な具象彫刻家 15 名の作品 27 点と、絵画 11 点といった個人コレクションを悠久の時の如くゆったりと展示する『静の美術館』。一つひとつの作品を 360 度の角度からじっくりと見られる配し方や、木々の間に良寛ゆかりの萱葺き屋根の小庵「五合庵」が建つ国上山が望める壁一面の借景窓、贅沢にも大理石の床を配したロビー、入口へのアプローチに敷き詰められた玉砂利など、そこかしこに創設者 菊盛嘉雄氏の心遣いがあふれている。そして田植えや稲刈りといったのどかな田園風景や、春は白い花が咲くドウダンツツジが秋には真っ赤に紅葉するといったささやかな四季の移ろいにも、訪れるだけでほっと心安らぐアートスポットとなっている。



▲伊東深水「八重紅梅」

▶右上／高村光太郎「みちのく」
右下／オーギュスト・ロダン「蛇と少女」
左下／清水多嘉示「みどりのリズム」



▶地元の北辰中学校生徒たちも授業で利用している。



作品を説明するのは床に置かれた小さなプレートのみ。作者などにとらわれず本物の良さを感じてほしいという想いから。



良寛の里 美術館

和顔愛語そのままに…
良寛や貞心尼の書を眺め
心ゆくまでその人柄にふれ
自らも書を楽しむひととき

長岡市島崎 3938 番地
【道の駅良寛の里わしま内】
TEL : 0258-74-3700
開館時間：午前 9 時～午後 5 時
入館料：大人（高校生以上） 500 円
小人（小・中学生） 300 円
※団体 20 名様以上は各 100 円引
休館日：年末年始
茶室「指月亭」※通常、見学は外部のみ。



良寛が歩いた山中を思わせる石段を上って行くと『良寛の里美術館』が現れる。展示棟には遺墨を数多く所蔵し、展示物は四季に応じて入れ替えている。



良寛と貞心尼の書や詩歌を中心に、文人墨客の作品を数多く展示している美術館。ロビーに面した中庭や、春には茶会も開かれる『指月亭』までの回廊など、鮮やかな新緑から白一色に染まる雪景色まで四季折々の彩りに心癒される。そして、同館の二棟を重ね合わせた特殊な造りには心憎いまでの演出が隠されている。というのも奥の大きな棟を良寛、手前の一回り小さな棟を貞心尼に見立てている。また、館内には良寛に関するオリジナルビデオの他、習字や折り紙の体験コーナーもあり、旅の思い出作りに一役買っている。



▲晩年（島崎時代）の書は、良寛書のなかでも良寛調が完成した時代である。この六曲半双屏風は、島崎時代の作で、流れるような筆致の中に高雅で清純な趣をなし、良寛の人柄を偲ぶことができる。



簡素な平屋造りの茶室「指月亭」は、風流を愛した良寛にふさわしく落ち着いた趣のたたずまい。



歴史民俗 資料館

古人の足跡をたどる
墨書土器や出土木簡・
歴史ロマンただよ貴重な遺物を展示



長岡市島崎 3938 番地
【道の駅良寛の里わしま内】
TEL : 0258-74-3700
開館時間：午前 9 時～午後 5 時
入館料：100 円
休館日：年末年始

木簡や墨書土器などが次々と発見され、全国的にも注目を集めた「八幡林遺跡」の遺物を始め、日本書紀にも記された奈良から平安時代の貴重な歴史遺産および民俗資料を展示した資料館。「八幡林遺跡」では、国道 116 号バイパス建設に伴う事前調査の際に「沼垂城（ヌタリノキ）」の文字が見える薄板が出土したことにより平成 2 年から 5 年までの 4 年間に渡り発掘調査が行われ、奈良時代の初め頃から平安時代にかけて機能した重要な地方官衙（役所）であったことが確実視されている。現在、膨大な量の出土遺物をもとに越後の古代史を解明するための研究がさまざまな見識者によって行われている。



▶日本初の完形部符（複製品）を展示。長さ 58 cm ほどの木簡は当時の身分証として用いられていたという。



雪国の暮らしを彷彿とさせる懐かしい品々を展示する館内。分割統治期の大名による年貢の取り立てにあぐら敷の苦しい生活ぶりや、激動の幕末から明治維新の際の和島地域の人々の様子、「塩之入トンネル」の開通に至るまでの経緯などもパネル展示している。





竹林を臨む平屋建ての小庵は土間続きの小部屋のみの簡素な造り。小さな囲炉裏を囲んで歌を詠み合った良寛と貞心尼の清らかな逢瀬や、弟子と共に過ごした貧しくも安らかな日々が偲ばれる。



晩年、和島（島崎）の木村家に移り住んだ良寛は、貞心尼と出会い、美しい師弟愛を育んだという史実にちなみ設けられた小庵。



出逢いの庵

良寛と貞心尼
二人の出逢いを演出
清らかな師弟愛を育んだ
簡素な佇まいの小庵

歴史民俗資料館となり

和らぎ家

散歩途中に
ふらりと気軽に立ち寄りたい
美術館ゾーンに
静かに佇む和風カフェ

長岡市島崎 5551 番地
【道の駅良寛の里わしま内】

TEL : 0258-41-8900

開館：午前9時～午後4時30分
(11月～3月は午後4時まで)

ランチ/午前11時～午後3時
軽食/午前9時～午後4時

定休日：第1月曜・火曜・年末年始



木材をあしらった建物は温もりあふれる造り。無料休憩スペースは展示ギャラリーとして定期的に利用され、文化交流が活発に行われている。

雪国の厳しい自然や風土が刻まれた古民家には歴史の深みや独特の味わいが漂い、堂々とした風格すら感じられる。



長岡市島崎 5713-2 番地
【道の駅良寛の里わしま内】

TEL : 0258-41-8110

営業時間：午前9時～午後5時
(季節により変動あり)

食事処/午前10時～午後3時
休館日：第1月曜・年末年始



もてなし家

けんさ焼き、おむすび…
越後の郷土料理を存分に
地域の食文化を味わう
古民家の“食事処”

良寛の日常を切り絵でイメージした障子。実際に子どもとのさまざまな遊びの逸話や、手まりつきの歌が数多く遺されており、貞心尼との出逢いを導いたのも手まり遊びにちなんだ和歌であったという。



『良寛の里美術館』の近くに建つお休み処。店内では「つるし雛作り」や「手編み教室」といった体験教室を定期的に開催する他、地元特産のガンジーミルクを使用したスイーツが味わえる喫茶コーナーもある。

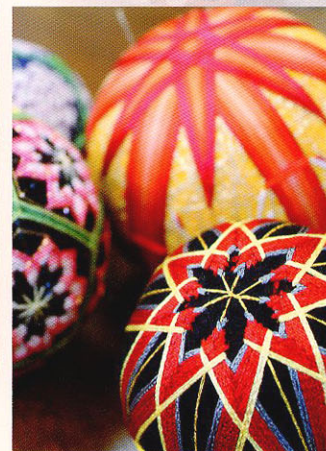


高畑集落から移築された古民家の吹き抜けには規則正しく組まれた黒塗りの柱梁が並ぶ。囲炉裏の煤の匂いがほのかに漂う茶の間では、味噌をあしらった焼きおにぎりや自家製の漬けもの、手作りの団子が浮かぶ汁物を思う存堪能できる。



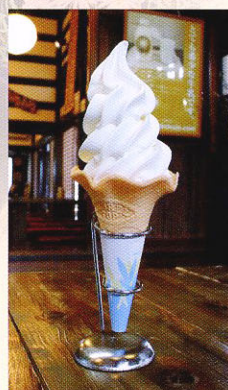
築180年の古民家を移築した地域交流センター。地元素材を活かした郷土料理や、地域の特産品を一堂に集めた物産コーナーに多くの人が集う。軒下を利用した地産地消コーナーには、地元農家が丹精込めて育てた農作物や季節の山菜が並ぶ。

良寛のぬくもりに触れる「つるし雛まつり」。毎年2月～3月に開催され、多くの人が訪れる。



手まり上人と言われた良寛ゆかりの手まりなどを作る体験教室が定期的に開催されている。参加者には、郷土料理をベースに地元食材をふんだんに盛り込んだ季節折々の昼膳が供される。

全国で二〇〇頭余り、県内でわずか十二頭という貴重なガンジー牛の「ゴールデンミルク」を使用したガンジーソフトはまさに食べる牛乳



▲良寛むすびとだんご汁



良寛と貞心尼 出逢いの地 はちすば通り

良寛と貞心尼が出逢い親交を深めた和島には、この三人の清らかな師弟愛にちなんで“はちすば通り”と名付けられた小路がある。足掛け五年続いた心安らかな交遊は、当地の人々の心に今なお生き続けている。

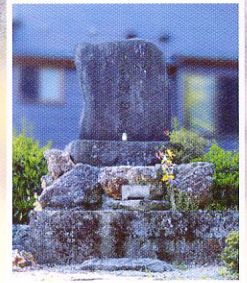
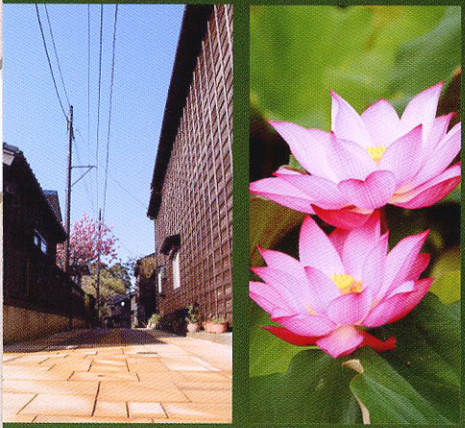


良寛と貞心尼 出逢いの地 はちすば通り

晩年の良寛が木村家に身を寄せ、地域の人々と穏やかな日々を送ったという和島（島崎）は、良寛が生涯で唯一気を許した尼僧 貞心尼と出逢った場所としても知られている。時に、良寛70歳、貞心尼30歳。手まり遊びに例えた和歌を詠み交わしたのを機に始まった二人の清らかな師弟愛は、良寛が74歳で遷化するまで続いたという。良寛の研究書や詩歌集、小説などの著者として、良寛の名を広く世に知らしめた相馬御風は二人についてこう語っている。「師弟の愛よりは深く、肉親の愛よりは強く、恋人の愛よりは清く、一種不思議な聖愛であった」と。

この時二人が交わした相聞歌をまとめた歌集「蓮（はちす）の露」にちなみ、“はちすば通り”と名付けられた通りには、良寛が晩年を過ごした庵跡や墓など十数カ所の史跡が点在。曲がりくねった細い路地には黒い板塀が続き、どっしりとした釉薬瓦の家並みが続く。この通りを訪ね歩きながら、当地に住まう人々と言葉の交わせば不思議に心満たされる。なぜなら、ここは歩くほどに良寛と貞心尼の光あふれる心を感じられる、観光地ならぬ“感光地”だからだ。

今、当地では古い街並みに合った道路舗装や案内看板が整備され、市と住民による昔ながらのたたずまいを生かしたまちづくりが進められている。良寛がその晩年の地として選んだ当地の人々は、今後も往時と変わらぬもてなしの心で通りを歩く人々を出迎えてくれることは言うまでもない。



◀良寛ゆかりの宇奈具志神社で行われる六夜祭。頭に鳥帽子を付け、華やかな装束を身にまとった子どもが弓を射る姿を模した勇壮な弓踊りが通りを練り歩く。

はちすば通りには良寛ゆかりの神社仏閣が点在している。良寛が“出田（いずるた）の宮”と歌にも詠み、盛夏に涼を求めて足を運んだ宇奈具志神社もその一つ。9月中旬には里山の竹を使った竹灯籠が参道を照らす。また、伝統的な絵柄が映える絵ろうそくを精魂込めて作る和ろうそく店もある。

通り沿いに正門を構える木村家の敷地内の小さな小庵で良寛は晩年を過ごした。同家の菩提寺の隆泉寺本堂左手奥に良寛の墓碑がある。この墓は良寛が亡くなって2年後の天保4年に浄財を募って建てられたもので、墓の左手には良寛の実弟 由之の墓がまるで良寛に寄り添うかのように建てられている。また、古刹「妙徳寺」内には良寛の法弟・遍澄の墓碑もある。



道の駅 良寛の里わしま

はちすば通り

周辺MAP

道の駅 良寛の里 わしま・はちすば通り

- 駐車場
- お食事
- 情報
- お手洗い

道路情報ターミナル

地域交流センター
もてなし家

お休み処和らぎ家

茶室 指月亭

良寛の里美術館

菊盛記念美術館

出逢いの庵

歴史民俗資料館

妙徳寺

宇奈具志神社

隆泉寺

木村家

和島小学校

長岡市和島支所

JR 越後線

小島谷駅

国道116号

至 寺泊・新潟

八幡林トンネル

八幡林遺跡

北辰中学校

ふれあい広場

和島野球場

和島B&G
海洋センター

北辰中学校入口

至 柏崎

県道寺泊西山線

割山橋

郷本川

桐島橋

入後橋

川辻橋

島崎橋

まなび橋

角田橋

主要地方道長岡和島線
和島橋

早川商店

島崎バス停
(越後交通 長岡駅~小島谷駅)

那須与市
地藏尊

たくはつ良寛像

大蔵経碑

良寛禅師庵室跡碑

良寛禅師墓碑

出田の宮詩歌碑

良寛の法弟
遍澄墓碑

妙満寺

地藏と清水の広場



周辺観光情報



住雲園

JR越後線(柏崎―新潟間)の前身である越後鉄道の創業者 久須美家の邸宅。享保2年(1717年)、和の粋を凝らして築かれた日本庭園は、泉石、庭石、樹木の妙を極め、樹間に弥彦山を望むことができる。観覧自由。



妙法寺

鎌倉時代末期の徳治2年(1307)に日蓮上人の高弟・日昭上人によって建立された日蓮宗の本山。数百年の風雪に耐えた朱塗りの二天門(赤門)や、百段ほどの石段の上の木造茅葺の四脚門(黒門)は庄巻。



村岡城址

鎌倉時代の築城とされる城址。妙法寺や六万部塚と同じく日蓮ゆかりの史跡。雪割草の群生地ともなっており、地元住民グループ「村岡城址の歴史を守る会」により里山の自然を楽しむ遊歩道が整備されている。



和島オートキャンプ場

日本海を望む高台に位置するキャンプ場。天気の良い日には佐渡まで見られる丘の上からは美しい夕景が楽しめる。海水浴や釣りなど海のレジャーに抜群の立地。キャンプサイトやバンガロー完備。冬季休業。



霊泉井戸神様

開基500年以上の歴史を持つ乗光寺の尊像に由来する「霊泉」。かつては眼病に効くとされ、治療に通う人もいたと伝えられる。水質にも恵まれ、地元の両高集落坂谷では「井戸神様」の名で親しまれている。



椿の森

水田の中の小さな森の中にある熊野神社には、常緑樹である椿が周囲を囲うように群生しており、地元の人々から「椿の森」と呼ばれ親しまれている。敷地内には良寛の歌碑もあり、春には深紅の椿の花が咲き乱れる。

和島までのアクセス

新潟→わしま……………JR越後線51km:1時間25分/車51km:1時間
長岡駅(小島谷行)→わしま…車22km:30分/バス22km:50分

柏崎→わしま……………JR越後線32km:50分/車32km:50分
上越新幹線……………東京→長岡駅:1時間45分
北陸自動車道……………中之島見附IC・長岡北SIC→車20分/西山IC→車30分
関越自動車道……………長岡IC→車40分



お問い合わせは
和島観光協会

道の駅良寛の里わしま「和らぎ家」(観光総合案内) ☎0258-41-8900
〒949-4525 新潟県長岡市島崎555-1

長岡市和島支所産業建設課 ☎0258-74-3114
〒949-4511 新潟県長岡市小島谷3434-4